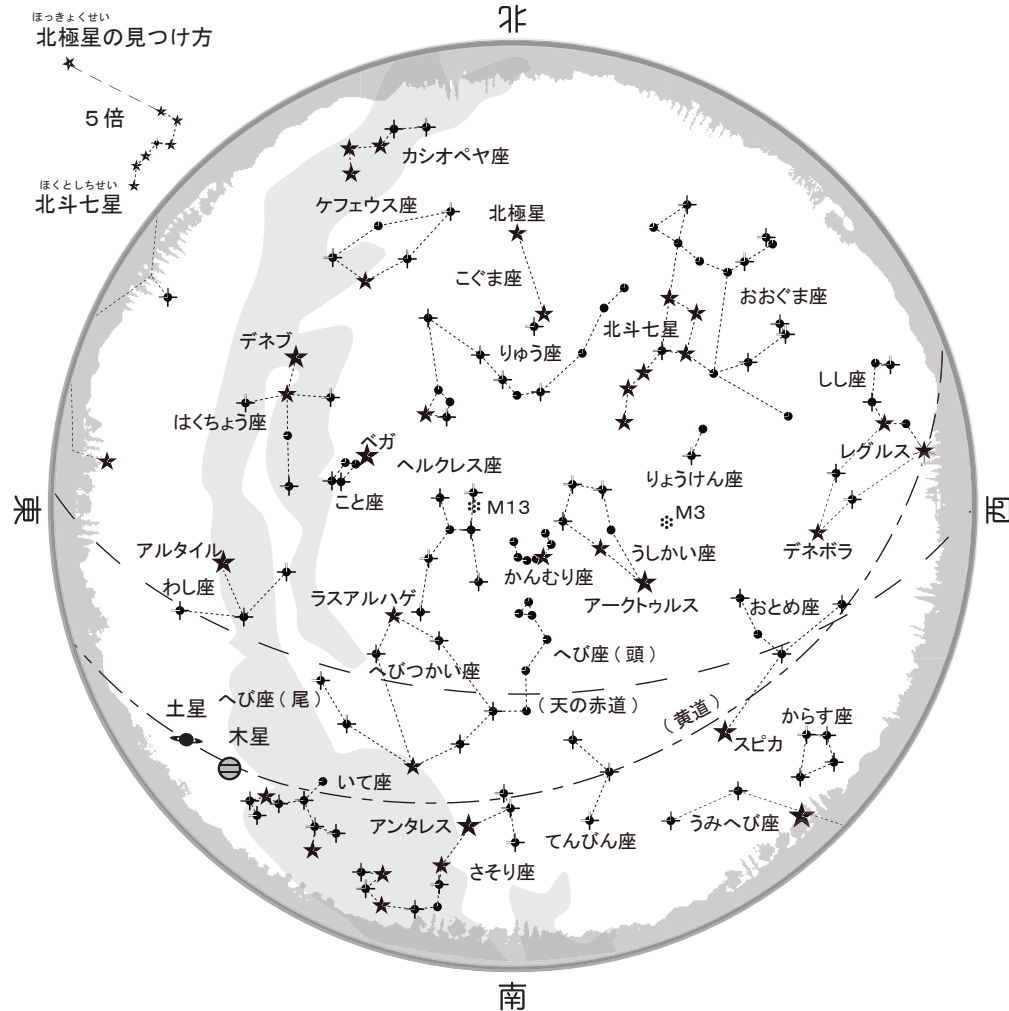


富山でみえる 2020年7月の星空

自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見てみよう。



- ★ 1等星と、より明るい星
- ★ 2等星
- ✦ 3等星
- 4等星と、より暗い星
- ◎ 変光星
- ※ 星団
- ≡ 星雲
- ☾ 銀河

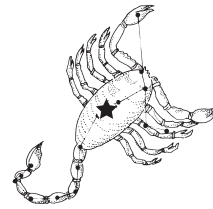
～この星空が見えるのは～

7月 5日 午後9時ころ
7月 20日 午後8時ころ
8月 5日 午後7時ころ

～月のようす～

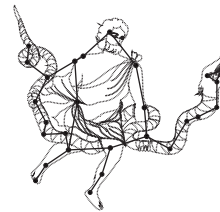
7月 5日 満月 ○
7月 13日 下弦 ①
7月 21日 新月 ●
7月 27日 上弦 ②

さそり座



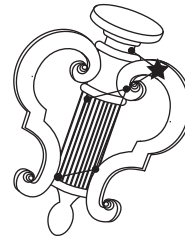
赤い1等星アンタレスが目印です。釣針のような形に星が並んでいるので、日本では「魚釣り星」や「鯛釣り星」と呼ばれました。なお街明かりなどのため下半分は見えにくいことがあります。アンタレスは、とても大きな星で太陽の約700倍もあります。

へびつかい座



暗い星をつなぐと将棋の駒のような形を作ることができる星座です。頭のところにある星は、ラスアルハゲという2等星で、へびつかいの頭という意味です。へびの部分は別の星座(へび座)になっています。

こと座



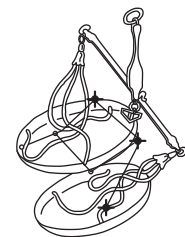
夏の星空で一番明るい恒星のベガが目印です。ベガは七夕のおりひめ星です。ベガの東側には望遠鏡で見ると4つに見える「ダブル・ダブルスター」という四重星があります。また、この星座にはドーナツのような形をした星雲(リング状星雲)があります。

わし座



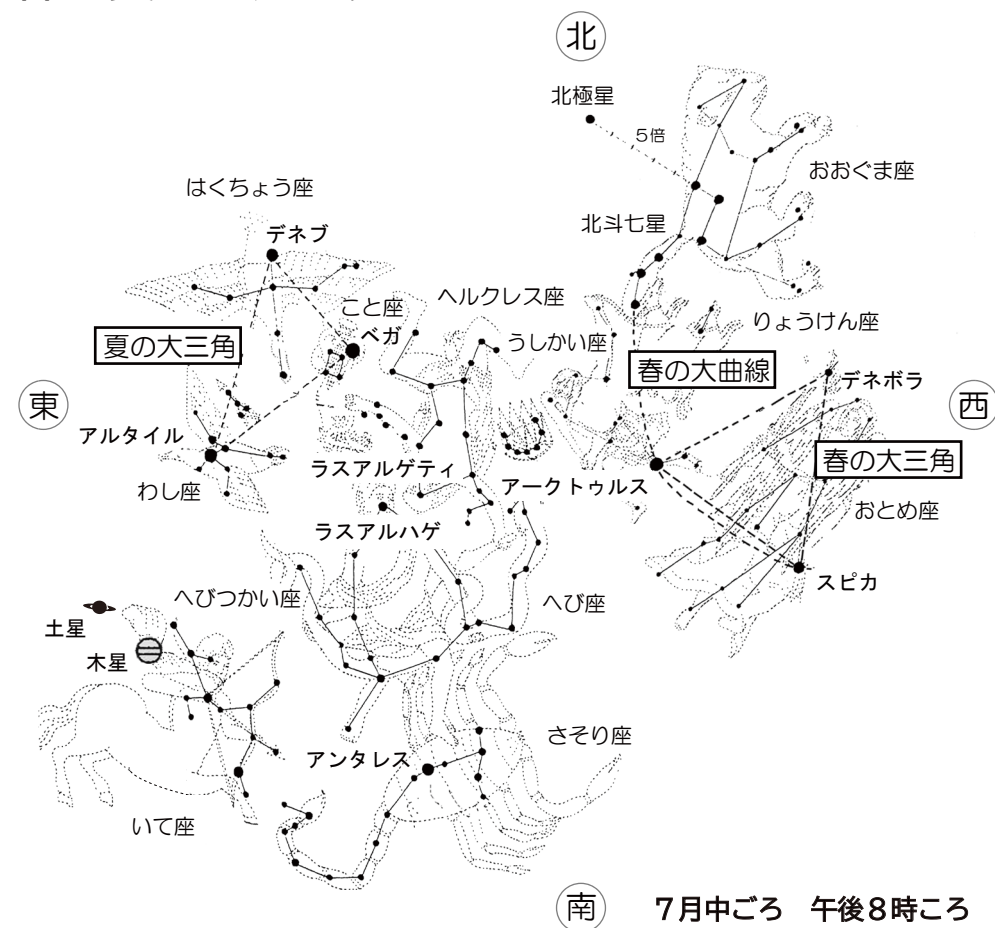
七塔のひこ星であるアルタイルが目印です。アルタイルとは「飛ぶワシ」という意味で、2つの星がアルタイルを挟んで一直線に等間隔でならんでおり、この3つの星のならびを飛んでいるワシに見たてたそうです。

てんびん座



重さを量る天びんの形を表した星座です。おとめ座とさそり座の間にありますが、暗い星ばかりなので目立ちません。黄道十二星座の1つで、ギリシャ神話では、正義の女神アストライアの天びんだとされています。

春・夏の星座の見つけかた



- 1 北の空で、北斗七星から北極星を見つめます。
- 2 北斗七星の柄のカーブを伸ばし、うしかい座のアークトゥルス、おとめ座のスピカと続く「春の大曲線」を見つめます。
- 3 アークトゥルス、スピカ、しし座のデネボラでつくる「春の大三角」を見つめます。
- 4 東の空に、青白くてとても明るい、こと座のベガを見つめます。それを手がかりとして、「夏の大三角」を見つめます。
- 5 南の空に、赤くて明るい1等星のアントARESを見つけて、そこから釣り針の形をしたさそり座を見つめます。

木星と土星がこれから見ごろ

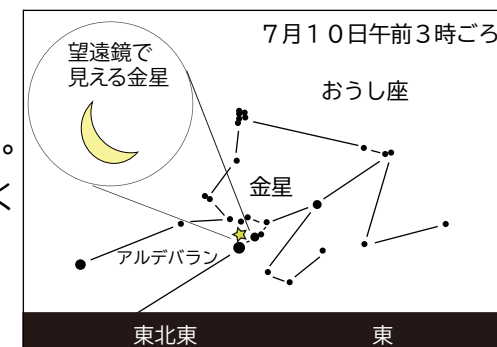
いて座の東側に木星と土星が並んでいます(左星図)。7月14日に木星が-2.8等、21日には土星が0.2等と大変明るく輝きます。望遠鏡で見ると、木星のしま模様やガリレオ衛星、また土星の美しい環の姿を楽しむことができますでしょう。



木星 土星

「金星」 最大光度で輝く!!

日の出前の東の空、金星が明けの明星としておうし座で輝いています。10日には、-4.5等と最も明るくなります。これは、1等星の100倍以上の明るさです。



七夕伝説と「月の舟」



天の川をへだてて離ればなれになった織姫と彦星が、1年に1度、7月7日に会うことができるという七夕伝説。二人はどのようにして会うのでしょうか。日本では、「月の舟」に乗って会いに行くという伝説があります。

今年の7月7日の月は、満月に近い形(写真上)で舟の形には見えません。けれども昔の暦は月の満ち欠けに関係していたので、7月7日は毎年半月(上弦の月 写真下)となり、横から見ると舟を連想させる形となります。今年、昔の暦の7月7日にあたる日は8月25日。月の形にも注目してみましょう。

